

▶事務局長からのご挨拶	時盛 昌幸	1
▶2019年度 補助・助成事業完了報告		2
▶年度別ご支援総額／2019年度決算報告		3
▶会費等報告／CENTER NEWS		4

## 事務局長からのご挨拶

### ～コロナ下における新たな事業モデルを目指して～

#### ◆コロナウィルス感染症への対策と経営状況

会員の皆さま、ご支援を頂いております関係者の皆さまにおかれましては、「新型コロナウイルス感染症」（以下「新型コロナ」）が蔓延する社会状況においても、私どもの活動へのご理解とご支援を賜り、法人を代表して御礼申し上げます。2020年に入り、「新型コロナ」の流行が確認されてからは、私どもを取り巻く環境がいかに厳しくなろうとも、法人の支援サービスを守ることを最大のテーマとして経営を行って参りました。そのために、まず初めに決断したことは、どのような経営環境になろうともすべての職員の雇用を守り、給与を支給することでした。この決断の時点では、政府および東京都の支援施策は出されておらず、また「新型コロナ」についてまだ実態がよく把握できていない段階であったため、勇気が必要な判断でありました。その後、具体的な支援策が政府・東京都より出揃い、また委託事業を受託している行政区にもご理解を頂くことができ、全職員の雇用が維持できることになりました。

具体的施策としての法人の「新型コロナ」対策は、2月17日に職員向けガイドラインの周知を開始し、7月末までに合計12回の対策周知を行って参りました。主な周知事項は、基本的な感染症対策の徹底、体調不良時の休暇の励行、業務実施可否の基準の呈示等、刻一刻と変化する感染状況およびそれに伴う政府・東京都の対策を踏まえた法人としての対応でありました。今後も伝達が必要な事項が生じた場合には、随時迅速な職員周知を行って参ります。

#### ◆今後の経営方針

現在も「新型コロナ」については終結の見通しが見えず、かつ政府及び東京都の対策が流動的であります。法人としては、今後の事業継続を確たるものとするべく、再度の緊急事態宣言発出等の事態に備え、出勤を前提とする現状の業務遂行を見直します。

これまで、居場所、相談、講演会等の支援事業は、対面で行うことが前提であり、効果の観点から非対面での実施を行って参りませんでした。しかしながら、今後数

年続くとの見通しも出されている「新型コロナ」の流行が継続し、対面での支援の選択肢しか持ち合わせていないならば、支援が停止することに加え、法人経営にも甚大な影響を及ぼします。そこで、事務局機能等の非支援事業は出勤を前提としない業務フローの構築を推進、支援事業においては非対面・オンラインで実施可能な形式の検討・試行を開始しています。

今後は、「新型コロナ」のみならず、自然災害をはじめ何らかの事由により対面での支援が困難になった事態を想定し、いかなる状況でも支援が継続できる体制を目指し、可能な限り業務のオンライン化を進め、オンラインとオフラインによるハイブリッド型の支援提供を目指します。

#### ◆おわりに

現在、世界が直面している「新型コロナ」は、従来のあらゆる価値を相対化させ、また一瞬にしてすべての人が社会的弱者になりうることを示されました。我々が自明のものとして信頼してきた社会がきわめて脆弱であったことを、多くの人が痛感しています。私は常々、「社会福祉事業における最大の利用者支援とは、支援の継続である」と申し上げておりますが、このコロナ禍を機としてこれまでの支援の概念そのものを、そのあり方を根底から問い直さねばならない時代に入ったと言えるのではないのでしょうか。

そこで改めて強調しておきたいのは、私どもの先達の足跡であります。法人創設35周年を迎える本年、しなやかにそして力強くわが国における若者支援を作り上げてきた当法人の歴史を振り返ることが、私どもの未来につながるのではないかと感じています。

引き続き、変わらぬご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

皆さまにおかれましても、くれぐれもご自愛のほど心よりお祈りしております。

# 2019年度 補助・助成事業完了報告

## 〈公益財団法人JKA 2019年度補助事業〉

公益財団法人 JKAにおける競輪の補助を受け、以下の「引きこもり・不登校に対する支援活動に対する補助事業」を完了いたしましたことをご報告申し上げます。

(1) 対話を重視した技法「オープンダイアログ」形式を用いた、ひきこもりダイアログ講座

【目的】ひきこもり当事者のご家族様向けにオープンダイアログの支援技法を用いた家族支援・交流会を用いることにより、家族内での対話やコミュニケーションについて再考し、実際の家庭の中で活用できるようになることを目的としています。

(2) 親世代の亡き後に備えるライフプラン講座と個別相談会

【目的】ひきこもりが長期化し、中高年に達した当事者、特にその家族を主な対象とし、ファイナンシャルプランナーによる生活・経済面にフォーカスした講座および個別相談会を開催することで、将来に対する不安の解消ならびに生活の見通しが立てられるようになることを目指しています。

(3) 青少年自殺予防事業

【目的】日本の若者の自殺率は先進国内で見ても高い水準を維持しています。うつ病等の精神疾患との関係性も多くあげられていますが、治療を受けていない方も多数おり、このような背景のもと、青少年自殺予防事業といたしまして、平日は電話相談員が隔週土曜日に精神科医が電話相談業務に従事しております。



ひきこもりダイアログ講座  
(講師：斎藤環氏)

## 〈日本たばこ産業株式会社 2019年度 JT NPO助成事業〉

日本たばこ産業株式会社 (JT) のNPO助成事業において、「ひきこもり当事者のコミュニティ＝社会資源を拡大する「市場」イベントの開催」への助成を受け、当該事業を完了いたしましたことをご報告申し上げます。

本事業はひきこもり当事者が社会復帰をするうえで欠かせないコミュニティの拡大を目標としております。茗荷谷クラブの利用者を主な対象に、売り手・買い手が行き交う「市場」において、〈来場者〉として参加するだけでなく、〈運営者〉として企画から当日の運営を行うという二方向のアプローチで、顔の見えるネットワーク構築を目指し、また自尊心の向上や他者承認につながることも期待しています。

2019年12月7日に当法人所在の三軒町ビル（文京区茗荷谷）にて、第1回「市場」として、クラブメンバーによるカフェをはじめとし、バザーやゲーム大会等のイベントが開催されました。当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、クラブ利用者だけでなく、OB・OG、利用者家族、近隣住民の方々にもご参加いただき、盛況のうちに終了いたしました。

なお、カフェ出店にあたり、キャピタル株式会社様（コーヒー指導）、マサラワラー様（カレー指導）より多大なるご尽力を賜りました。ここに深く御礼申し上げます。本事業の目標実現のためには一度の開催で満足することなく、今後も継続して事業を実施してまいりたいと考えております。



コーヒー講座（於キャピタル(株)本社）

## 〈公益財団法人大阪コミュニティ財団 江田直介・静子健やかな青少年育成基金〉

江田直介・静子健やかな青少年育成基金の助成をうけ、「ひきこもり支援のさらなるレベルアップを目指すための連続講座」（全6回／2019年8月～2020年2月）を開催し、助成事業を完了いたしましたことをご報告いたします。

近年、需要度を増しているひきこもり支援の現場において、臨床心理士・公認心理師をはじめとする支援者には、当事者の心理的・精神的なケアだけでなく、当事者が地域社会で生きていけるように包括的・多角的な支援の提供が必要とされています。そのニーズに応えるべく、第一線でご活躍中の先生方を各回の講師にお迎えし（①斎藤環氏、②近藤直司氏、③徳丸享氏・井利由利氏、④畠中雅子氏、⑤板東充彦氏・割田大悟氏、⑥青木紀久代氏）、ひきこもり支援従事者の方々を対象とした連続講座を開催いたしました。

本講座には、延べ200名の方々にご参加いただきました。また、臨床心理士資格更新のためのポイント申請を行いました。



連続講座第6回（講師：青木紀久代氏）

当法人の事業に対し、上記の団体・企業様から深いご理解ならびに温かいご支援を賜りましたことに、心より感謝を申し上げます。誠にありがとうございました。また、講師の先生方ならびにご参加いただきました皆さまにも重ねて御礼を申し上げます。引き続き当法人では、皆さまのご期待にお応えできるよう鋭意努力いたす所存でございますので、なにとぞ一層のご支援とご協力を賜りますようお願いいたします。

# たくさんのご支援ありがとうございます

年度別ご支援総額(2016～2019年度)

このたびは青少年健康センターの活動のため、尊いご寄付を賜りまして誠にありがとうございました。いつもあたたかいご支援に励まされております。ご厚意を心より感謝して有効に使わせていただきます。公益社団法人青少年健康センター 会長 齋藤友紀雄



## 2019年度決算報告

令和元年4月1日～令和2年3月31日

科 目	当年度	前年度	増 減
I 経常増減の部			
(1) 経常利益			
1 基本財産運用益	0	0	0
2 受取会費	900,000	740,000	160,000
3 受取補助金等	18,009,827	18,757,606	△ 747,779
寄付金収入	13,772,617	11,698,606	2,074,011
補助金・助成金収入	4,237,210	7,059,000	△ 2,821,790
4 事業収益	84,834,468	86,569,526	△ 1,735,058
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	81,726,884	74,413,090	7,313,794
公2 社会参加支援プログラム開催事業	0	1,175,454	△ 1,175,454
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	375,000	375,000	0
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	2,732,584	10,605,982	△ 7,873,398
公5 青少年自殺予防事業	0	0	0
5 その他の収益	2,049	584	1,465
経常収益計	103,746,344	106,067,716	△ 2,321,372
(2) 経常費用			
1 事業費	101,067,673	99,207,184	1,860,489
公1 引きこもり不登校に対する自立支援事業	84,154,059	74,533,384	9,620,675
公2 社会参加支援プログラム開催事業	1,156,620	1,916,487	△ 759,867
公3 思春期カウンセリング講座開催事業	1,703,083	1,487,343	215,740
公4 講演会・シンポジウム等の開催、普及啓発事業	8,617,596	16,096,425	△ 7,478,829
公5 青少年自殺予防事業	5,436,315	5,173,545	262,770
2 管理費	8,497,055	9,479,466	△ 982,411
経常費用計	109,564,728	108,686,650	878,078
当期経常増減額	△ 5,818,384	△ 2,618,934	△ 3,199,450

# 会費・寄付金・助成金・補助金報告 (2019年11月～2020年7月)

青少年健康センターは大勢の個人の方々のご献金、および団体・企業様の助成金、ご寄付、補助金などによって支えられています。ここに心から感謝申し上げてご報告いたします(敬称略)。

【正会員】 能勢 孝子 計: 20,000円

【維持会員】 山本 弘夫 計: 10,000円

【SW会員】 SW会費+維持会費 18名: 270,000円 SW会費のみ 86名: 860,000円

【寄付】 石崎 秀 石村 愛子 伊豆 邦子 稲村 優子 岩崎 哲也 大野レイ子 小川 栄子  
 小倉 典子 小野田欣子 木下八重子 小山久美子 穴戸信次郎 島田 義範 常廣 澄子 鈴木 厚一  
 鈴木 義則 高野 龍子 舘 裕子 土肥 伴子 鳥井いおり 西澤恵美子 野澤徳陽子 橋本 進  
 廣瀬 清晃 福山なおみ 弥富寿美子 山下 正美 山下 保則 山本 弘夫 匿名 5名  
 阿佐ヶ谷教会 玉の肌石鹸株式会社 西川口教会 計: 8,622,200円

【助成金・補助金】 公益財団法人JKA 1,278,420円  
 厚生労働省 両立支援等助成金 187,200円 経済産業省 持続化給付金 2,000,000円 計: 3,465,620円

## CENTER NEWS

2019年度 (敬称略)

11月

- 台東区講演会「8050問題を考える～長期化するひきこもりにどう向き合うか～」 2日  
 講師: 池上 正樹 (ジャーナリスト) 於台東区役所
- ひきこもり家族の個別相談会 9日より1月まで毎月開催  
 講師: 畠中 雅子 (ファイナンシャルプランナー) 於青少年健康センター
- ひきこもりダイアログ講座 16日  
 講師: 斎藤 環 (精神科医) 於中央大学駿河台記念館
- シンポジウム「ひきこもりの時代、平成をふりかえる」 16日  
 講師: 石川 良子 (松山大学)・木村 ナオヒロ (ひきこもり新聞)・斎藤 環 (筑波大学)・林 恭子 (ひきこもりUX会議)・ぼそと池井多 (HIKIPOS) 於中央大学駿河台記念館
- 茗荷谷クラブ スポーツ大会 20日 於文京スポーツセンター
- クリニック絆 電話相談員研修 24日  
 講師: 谷口 万稚 (米国臨床心理士)
- ひきこもり支援のさらなるレベルアップを目指すための連続講座 第4回:「ひきこもりが親亡き後を生きる生活設計」 30日  
 講師: 畠中 雅子 於キャピタルビル

12月

- 茗荷谷クラブ 親とスタッフの会 1日
- 茗荷谷クラブ コーヒー講座 3日
- センターバザー開催 7日 於三軒町ビル
- ひきこもりダイアログ講座 21日  
 講師: 斎藤 環 於TKPスター会議室護国寺
- さくら国際高等学校東京校講演会「子どもが一步を踏み出そうとする時」 21日  
 講師: 倉光 洋平 (当法人臨床心理士) 於さくら国際高等学校東京校
- 東京大学「発達障害とひきこもり」シンポジウム 22日  
 登壇者: 井利 由利 (当法人理事) 於東京大学
- 茗荷谷クラブ クリスマス会 25日 於かるた会館
- クリニック絆 電話相談員研修 12日

1月

- 茗荷谷クラブ 初詣 8日
- ひきこもり支援のさらなるレベルアップを目指すための連続講座 第5回:「ひきこもり」者との共生～場作りで求められるもの～」 11日  
 講師: 板東 充彦 (臨床心理士)・割田 大悟 (「ひき桜」in横浜)

於キャピタルビル

- ひきこもりダイアログ講座 18日  
 講師: 斎藤 環 於筑波大学
- 茗荷谷クラブ 40代以上の居場所よつば庵 19日
- クリニック絆 電話相談員研修 21日
- 茗荷谷クラブ ゲーム交流会with株式会社デジタルハーツ 29日

2月

- ひきこもり支援のさらなるレベルアップを目指すための連続講座 第6回:「地域で求められるひきこもりへの専門家の対応」 8日  
 講師: 青木紀久代 (臨床心理士) 於キャピタルビル
- 茗荷谷クラブ ボーリング大会 14日
- 茗荷谷クラブ 女子会 17日
- クリニック絆 電話相談員研修 19日  
 講師: 谷口 万稚
- 文京区講演会「8050問題を考える～長期化するひきこもりにどう向き合うか～」 22日  
 講師: 池上 正樹 於文京区民センター

3月

- 新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各自治体の講演会・家族会中止

2020年度

4月

- 新型コロナウイルス感染症対策として営業自粛 8日
- 茗荷谷クラブ クラブ休止期間中スタッフブログ連載
- 神楽坂高齢者施設にてアルバイト事業開始
- 文京区ひきこもり支援センター開設 (茗荷谷クラブ: STEP事業として受託)

5月

- 茗荷谷クラブ オンライン居場所のトライアル/電話相談の開始
- ひきこもりダイアログ講座オンライン実施 15日  
 講師: 斎藤 環 \*YouTubeにて会員限定配信

6月

- 営業再開 1日
- ひきこもりダイアログ講座オンライン実施 13日  
 講師: 斎藤 環 \*YouTubeにて会員限定ライブ配信

7月

- ひきこもりダイアログ講座 11日  
 講師: 斎藤 環 於連合会館
- 茗荷谷クラブ 親とスタッフの会 11日

発行・公益社団法人 青少年健康センター (会長 齋藤友紀雄)

〒112-0006 東京都文京区小日向 4-5-8 三軒町ビル 102 TEL:03-3947-7636 / FAX:03-3947-0766  
<http://www.skc-net.or.jp> E-mail: info@skc-net.or.jp